

昔と今をつなぐ、

道があった、

岩切

木があった、

水の流れがあった。

洪水

七北田川

大井堀

八坂神社

カド

馬捨場

東光寺

青麻神社

今市おこし再現

岩切生物生息地図

田子用水

水車

蕎米坂

東街道

奥大道

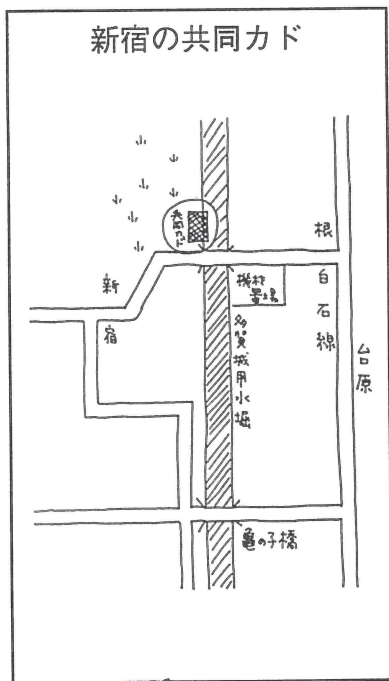
は、釣りをしたり、“土管”（コンクリート製の短形の水路で水の流れの下に埋めてある）では、くぐって渡る探検をしたりした。今の子ども達は“ドブ川”と呼び、「あぶないからはいつてはいけません」の立札があるので、堀に親しむ機会は少ないようだ。

幹線の堀もあちこち暗渠となり上を車が走る様になった。又田んぼの用水路もコンクリートU字溝が入って泥が無くなり通水も5月～9月で止められるので子供の頃「春の小川はさらさら流る…」と唱った思い出はどこにもない。ホタルも年々減少して身近なところどころでここ10年の間にほとんど絶滅状態となった。メダカやゲンゴロウ等の

水棲動物も見られなくなった。それぞれに農業の理由もあるのだろうが。幸い岩切地区の開発のテナポは緩やかなのでまだ自然は多分に残っているが、これを残しながら地域の便利性を求めていくにはどうするか甚だむずかしい事のように思う。

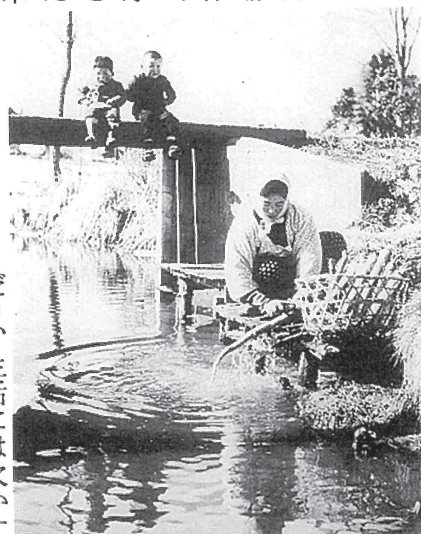
カド（E-7）

生活用水、防火用水として引込まれた用水掘で



は各戸
又は
二、三
軒共同
で洗場
を作
り、鍋
釜、野
菜等を
洗った
り、米

をといだりと炊事に、
また、朝早く起きて飲み
水をくんだり風呂をくん



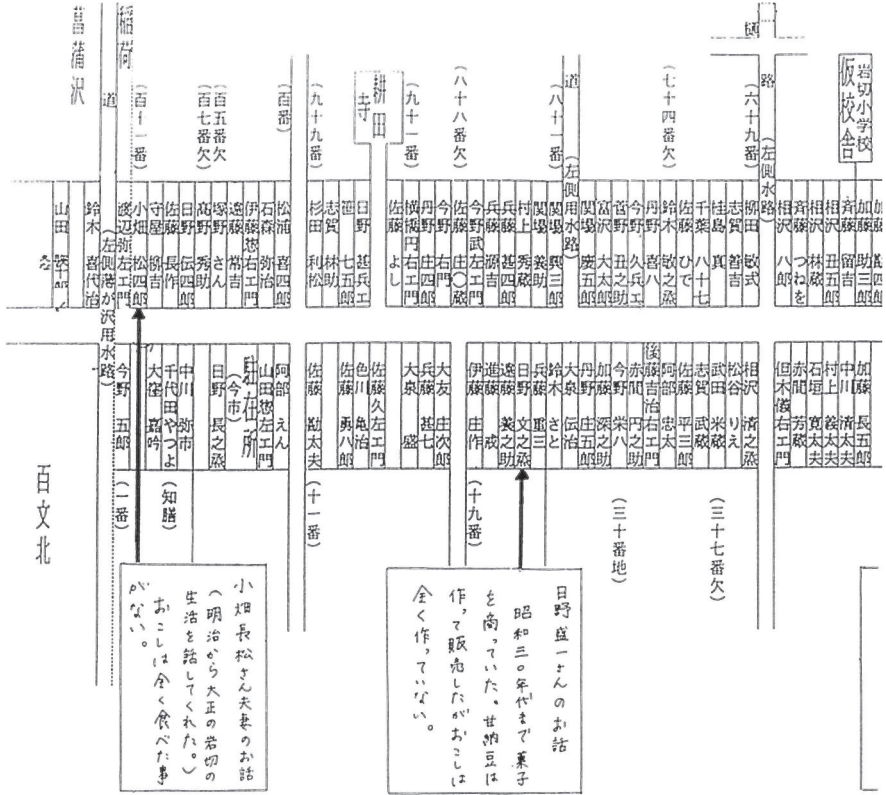
カド（昭和36年四郎丸）
仙台市環境計画課提供



新宿のカド跡

だり、生活には欠かす事
の出来ない水だった。こ
の洗場のことを「カド」と
言ったそうだが鮒やドジ

岩切小学校
飯枝全白



(大正四年五月作成岩切村宿舎図より) 転写)
(仙台市宮城野区岩切支所所収)

こしは見た事も食べた事もないとのこと。

9月中旬〜下旬

メンバーそれぞれが分担して調査にあたる。横町の様子、商家茶屋、今市の足軽町の様子。今市おこしを文献で調べる。

10月18日

日野氏宅の作業台の写真を撮る。
菓子を商っていたという今市の日野盛一氏宅訪問。

10月20日

古老、小畑長松夫妻訪問インタビュー。
おこしの材料の調査と調達等。

10月20日

小畑氏宅訪問。

10月25日

今市、日野盛一氏宅訪問。

10月26日

試作のため材料の調達、糯と麦芽、または麦芽糖。
小畑長松夫妻宅訪問。今市おこしは食べた事がないとのこと。

12月19日

おこしの試作。3種類試作、試食。

1月23日

第2回目のおこし試作。

2月22日

地元学メンバー全員に試食してもらったためのおこしの製作。